
ポスター No.50

川崎市における 官民での互助・共助の取り組み

川崎市多摩区 「結」 ケアセンターいくた

【説明】

「結」ケアセンターいくたでは、川崎市が進める「地域交流スペース」を開設した。これは2035年に高齢者が増え、市内の施設が不足することや、近所の歩ける場所に介護予防などを行える場を早期に設けることで、必要な時期に備える「目的(狙い)」となっている。地域密着型介護事業所に設置されていることが多い。

また人的な面では第2層の「生活支援コーディネーター」を小規模多機能・看護小規模多機能居宅介護施設に市の事業として段階的に配備「を」進め、健康寿命の延伸、認知症状があるご本人・ご家族の早期支援、8050の早期発見など、地域包括センターが手の届きにくい、細やかなところを補えるように活動を始めている。

「結」ケアセンターいくたで行っている「地域交流スペース」「生活支援コーディネーター」の2つの取組みの実践事例を数例上げると、地域の小学生から70歳までの有志が10名程度集まり、月1回子ども食堂を開催している。(スタッフには精神障がいを持った方もいたが、無事卒業して社会復帰している)参加者の多くは地域の幼・保・小学生とその親である。支援色の強い子ども食堂ではなく地域コミュニティとなり、相談事の解決も少しずつできるようになっている。他には、地域特性で駅徒歩25分以上の丘の上、コンビニもなく、50年前の新興住宅地で高齢化も進んでいる。その立地にコロナ禍で売上が落ちたパン屋さんと連携して週1回2時間パンの販売をしてみた。すると課題の抱えた方々が多く集まってきた。その他には健康体操、ヨガ、町内会の麻雀教室、ピアノ教室、リトミック、英会話など駅の近くになりそうなものが揃ってきている。このような取組みを通して顔の見える関係を作りながら介護予防や介護相談を地域の共助・互助の関係を通じて行っている。

